

## 二〇一一年全戦没者追弔法会報告 戦争の世紀を超えて

姜尚中さん  
かんさんじゅん

第三に指摘したいのは、人間の中の小心翼翼とした「善意」が、結果として巨大な「悪」をもたらしたことです。二十世紀は、戦場だけでなく、銃後の世界でも、フツツの人びとがぞっとするような殺戮や虐殺に走る衝撃的な事件が数多くありました。よき家庭人であり、素朴な敬虔さをもった人びとが、集団となって狂気の沙汰のような虐殺にのめり込むことがあったのです。

こうした二十世紀の前半を彩った夥しい数の殺戮や虐殺の歴史に幕を引き、人類は平和と共存の新しい時代を迎えられるのではないかと期待に胸膨らませました。戦後の日本について言えば、平和憲法のもと、もう二度と悲惨な戦争の起きない時代を人びとは祈念したのです。

しかし、二十世紀の後半も、世界の至る所で二十世紀前半の悲劇が、形を変えて再現されました。たとえ、それらが世界を巻き込むような大戦に拡大しなかったとしても、たくさんの人命が失われ

ました。ここにあげたような、戦争や虐殺の誘因となる三つの要因は、ふたつの大戦の後も根本的には正されなかったのです。

そして世紀があらたまり、二十一世紀になっても、わたしたちは依然として二十世紀の「末裔」にとどまっています。いままも、世界のここかしこで、戦闘は続けられ、自爆テロや殲滅戦が繰り返されているのです。

このようにみると、わたしたちは恒久平和と共存の時代など、夢のまた夢のように思ってしまうかもしれません。それだけでなく、一見、戦争とは無縁なようになわたしたちの日常の世界に目を向けても、自殺や無縁死、無関心や虚脱感が広がり、希望や夢、思いやりなどが萎えつつあります。何のために生きているのか、生きることがよりよい生き方なのか、どうあることがよりよい生き方なのか。こうした根本的な問いに社会が答えられない時代となりつつあるのです。

以上のように、わたしはどちらかというところ、悲観的な側面にことさらに目を向けるようなことを述べました。あえてそうしたのは、見たくないもの、目をそむけたくないものをしつかりと見据えるこ

とで、むしろその中から平和と共存の未来が見えてくるのではないかと思うからです。それこそ、瓦礫の中から愛と希望を見つけ出すつもりで、戦争の世紀を超える時代への歩みをはじめていくしがあります。(つづく)

## ◇鎌仲ひとみ監督トーク

in 東本願寺(四月十六日)

どうしても、お仕事しながらでも聞いてほしい。息詰まる講演です。無駄な言葉は一つもない。たったの十五分です。 ミキ

そんなコメントと共にインターネットで紹介され、反響を呼んでいる鎌仲ひとみさんの東本願寺でのお話です。七組真行寺のご住職が撮影し、ネット上にアップされました。

以下内容抜粋要約

「直感」・「誰しもが持っている。でもテレビに自分の好きな女優さん、あこがれの俳優さんが出てきて、原発はCO2も出さないし、私はいいと思います!というところ、どうですか?」

原子力プロバガンダ。

東電は年間270億円も使ってあらゆる文化人、俳優、女優を使って「安心です」「クリーンです」と原発に対していいことしか言わない、原発に対して批判的な人はテレ

ビに出さない。ということをやりに続けてきたので、この人がこう言ってるんだからと皆さんの「直感」というものが簡単にどこかに行ってしまうっているのでは？

情報操作をされているのでは？ 実際これまでされてきた。

イラクの子どもたちのことを編集してNHKのプロデューサーに見せたら、「…アメリカの言ってることと違う！」

プロパガンダを作っているメディアの人たち自身が自分自身を染め上げていて、そこからのみ出そうとしない、というのが大きな壁。



もうひとつの困難は、情報操作が意図的にわけていて、それは非常に美しく巧妙に行われているために、それに身をゆだねるとみんなそうだから非常に心地がいい。その心地よさの中で、「…これはひよっとしたらまずいんじゃないか、あぶないんじゃないか、命に関わることなんじゃないかな、でもそんなこと怖くて言えないよ、だってみんなそうだって言ってるんだもん！」という風になっている。

そんな中で、「いや、やっぱりそれは違うー！」というと、

「あら、あの人なんか、宗教でも始めたのかしら？」（会場笑）・本当にそうですよ。巧妙に、「共産党じゃないかしら？」とか「ちよっと変わってるのよねえ。」貧乏くじを引くのです。

原子力を研究する業界の中で、「こつち（原子力）にすすめるべきではない」、と言いつづけていた人たちは、すべて出世できていません。そればかりか迫害される。

立命館大学の平和研究所にいる安齋先生は、かつて東大にいて、原子力の研究をしていた。彼が「原子力は危ない、慎重にやらなくてはならない」といったとたん、彼の職場でだれ一人として彼と口をきかなくなつた。十一年間そこにおいて、誰とも口をきくことなく、そこをやめた。

今ちよつとテレビやラジオで意見を聞かれている小出先生は、「六ヶ所村ラプソディ」にも出てらっしゃいますけど、彼もはつきりと原子力の危険を言っています。もう六〇に近いのに助手。助教授にすらなれていない。

つまりこの日本で原子力に異を唱えるということは、経済的な貧乏くじを引くということ。何の得にもならない。それでも自分の『直感』にしたがつて生きるのか？ となると**一定の覚悟が必要**となる。

私たちに求められているのは覚悟、だと思ふ。その覚悟の自身はどんなものか？ 森達也さんという映画監督、彼の作品を尊敬している。

地下鉄サリン事件を扱った映画の中で、どうしても忘れられないシーンがある。今回の福島の事件でもこのシーンを思い出した。

サリンを吸って階段で倒れたり苦しんだり、くの字になつている人たちを、次のサリンをまかれなかつた電車がついてばーつと降りてきたサラリーマンが、「ちっ、」といつて苦しんでいる人たちをまたいで、仕事に急いで行つてしまつたんです。

善なるもの、「会社員として会社に遅刻してはいけない」ということが、そこに倒れている人にどうしたんですか？ だいじょうぶですか？ と声をかけることより優先する、そんな社会に自分は生きていて、これは恐ろしいことだな、と思ひました。

今回よく、テレビに出てくる原子力保安院の人たちとも「六ヶ所村ラプソディー」を創る中で密接にお付き合いがありました。みんなとてもいい人たち。良いお父さんなんだろうと思ふ。わざとこういうことを起こしたわけではない、とも思っています。でもたとえ、去年の夏、福島に行つたんです。

福島3号機にプルサーマルを受け入れる

という。市民グループと抗議に行きました。福島県原子力安全管理課 課長が出てきた。すっごい見るからにいい人。善良な人なんだろうな〜というような雰囲気かじみ出ている。

そのかたに、「今回、こんな古い原子炉にプルサーマル燃料を入れてしまつて、もし、核が暴走したら、どうするんですか？そのために設計した原子炉でなく、これまでも不具合が起きていたのに、大丈夫なんですか？よしんば事故を起こさなくても、出てきたら、これまでと全く違う毒性の高い、どこに持つていくともきまつていない使用済み核燃料が出てくる。50年もプールで冷やしておかなくちゃいけない。そんな危険なものを福島に持つてくることを、福島県民にちゃんと説明したんですか？」黙つて、うつむいて、一言も返してただけなかつた。彼は無力：を感じていたんですよね。

なんで、じゃあ、受け入れたのかというと、「7月までに受け入れた自治体には20億円やるよ」と経産省が言つたんです。7月までに受け入れなかつたら20億円やらない、と。(会場、ざわざわ) それまで抵抗していた原発を持つていた自治体が、じゃあしようがない、と受け入れた。その20億円の引き換えに差し出したものは何なのか、**県民の命ですよ。**

福島県知事の前の佐藤栄佐久前知事がプ

ルサーマルを撤回したとたん、収賄疑惑をかけられ、側近が三人自殺しました。彼の妹は着のみ着のままつれさられ、一週間帰つてきませんでした。持病もあり息も絶え絶えで帰つてきた。

彼が自分の罪を認めなければ、こんな犠牲が続くと判断して、彼は自分の身に覚えのない収賄罪を認めて、有罪になりました。それは、「知事抹殺」という本に書かれています。

そういうことが現実に行われていて、見ぬふりをする人たちがたくさんいて、この土台・原子力は絶対すすめる、原子力は絶対安全：が横行してきたんですね。

それを一生懸命進めている人たちは、倒れている人たちをまたいでいく、仕事熱心で、まじめな、自分の家族のために一生懸命稼いで働く、そんな人たちなんですね。それは、私だ、と。(文字起こし) こと小原美由紀さん)

\*プロパガンダ：特定の思想・世論・意識・行動へ誘導する宣伝行為

### それは軍だつたんだ

国策。一部の人々の利益のために多くの人びとを犠牲にしていた国策戦争。原発という国策はやはり人々を犠牲にしていく。一体何のために：。原発から取れるプルトニウムで核武装？原発は国防のため必要？ 冗談じゃない。ピンポイント爆撃のできる時代。原発

狙われたら終わりでしょう。もうすでに脅されていくかもしれない。政府のおかしな動き。もう五十数基もある。核持つても国防は出来ない。いつもいつも騙される私たち。早く目を覚まそう。

菊地洋一さん(浜岡原発建設に携わつた技術者の叫び。泣きたくなつた。青春をかけて新しいエネルギーの可能性を信じ原発建設に取り組んだ。原発の歌を歌いながら必死に、命がけで働いた。過労で死んだ人もいた。

その菊池さんが、浜岡原発は欠点だらけ。直下型地震の来るところに立ち、もし起きたら福島が線香花火の程度のこととなる。お願いだからそれぞれの立場のものが、とめるために動いてほしい、と中部電力に訴える。今命がけで止めようとしている。浜岡原発は薄い「スカート」(あしとなるもの)の上に乗っている。地震に限りなく弱い。菊池さんは福島県在住。浜岡に住み込んで止めるための働きかけをしている。福島にいる娘には、原発で育てられた自分はここに住んで、一生償いをしていくと言われた。

悲しすぎる。若者をアジアの平和のためと鼓舞した太平洋戦争。終わつたら若者を平和利用のためと鼓舞した原子力産業。姜尚中さんが、広島と福島をならべた。核爆弾と核の平和利用。同じものだった。

20キロ圏内にとりのこされた牛たち 4月21日最後の餌をもらつて死を待つ 戦地に置き去りにされた兵士のような 時代はあれから少しましになつたのだろうか



ところが、放射線は爆発したその町に残っていて、一つは、地面の上に降り積もっていた放射線の粒子、粒を人間が触ったり歩いて飛び立った誇りとして吸い込む。また水源地が侵されて水の中にたくさんあるのを飲む。それからあのきのこ雲という舞い上がったあの雲は、爆発の時に参加しなかった生のままのブルトニウムとかウラニウムという、放射線の粒があの中にいっぱい詰まっていて、それがいつペン成層圏まで舞い上がります。しかし小さな粒でも重みがありますから、降ってくる。だから後からオヤジを探しに街に入った四日後に妹や弟の様子を見に入った、自分は爆発とも何の関係の無い人が後から街に入ったために広島でも長崎でも今の医学では診断の出来ない不思議な病気がおこって大変苦しみました。

それで大部分の被ばく者は、今から十年ほど前から今もそうですが、五十年六十年経ってから癌や白血病という悪性の病気で、今、どんどん死んでいます。つまり、戦争の終りに被爆をした人が、六十年も生きて、その生きてる間も、健康で過ごせたんではなくて、しょっちゅうお医者さんに行つて入院を繰り返す。だけでも病気の本体はよくからない。そういう事で苦しんだ人が最後はがんや白血病で命を取られる、放射線はそういう性質を持っているのです。



ところが落としたアメリカは直接ピカを浴びて、やけどをしたり大怪我をした人たちがそういう強い放射線で殺される、これは隠すことが出来ないんで、そのまんま認めたいですね。

ところが後から街へ入った人が、今の医学ではわからないような病気で苦しんだとう

ことを聞いても、それはその患者を診た医者が、原爆のことを悪くいうためにデマを飛ばしているんであって、体の中に入る僅かな放射線は全然害がない、ということを、広島から爆弾を落としてから一ヶ月と二日目、アメリカのあの爆弾を作ったグループの一番「ゴロ」の人から2番目という偉い軍人が来て、まだマッカーサーが日本へ上陸する前に焼け残った東京の帝国ホテルの前に、外国から来ているジャーナリストを集めて、つまり微量な放

射線は体に入っても何にも害はないんだということを世界に向けて放送をし、日本の政府に向けてもそれを承知しろと。

で、広島長崎で被害をうけた被ばく者は、アメリカの軍事機密である原子爆弾の秘密の一部を自分の体で知ったわけだから、これはアメリカの軍事機密だから絶対に人にしゃべってはいけない、それから書いて残してもいけない、もちろん写真や絵で書いてもいけない、もし違反した物は厳罰に処すと、占領政策に最初にそれを日本で宣言したんですね。

だから、広島長崎で被ばくをして、兄弟も親もみんな死んじゃった、財産も亡くなった、行き場もない、そこら辺で倒れて寝っ転がっていたたたくさんの被ばく者が、私は広島長崎で原爆で原爆を浴びてとても今困っています、助けて下さいって言うことが言えなくなりました。これはアメリカが日本に原爆を投下したことも大変な罪悪ですけれども、それにもまして、戦争が終わって、自分の落とした爆弾で、医学でなおしようもないという大変な病気を負っている被ばく者に生きる道を閉ざすような大変悪いことをアメリカはしました。

それは自分だけが持っている原爆という新しい爆弾の秘密がよその国に漏れることを非常に恐れたからです。みんなも知ってるように、アメリカ軍は戦争が終わってから七年間、アメリカの鉄砲を持った兵隊で、実際に軍事占領をしました。私たちは戦争で負けた上に、食べ物もない、うちも焼けてない、という中から日本の国を新しく作るために一生懸命働

きました。私は医者ですから、自然に被ばく者をたくさん見るようになります。

日本の医者のはじめはアメリカの言う事をそのまま信じて、後から街へ入った被ばく者が、かったるくて動くことが出来ない、他はなんともないんだけど、元気で働いていたら、ある日突然、大変なダルさがおこって会社へ行けなくなつた。

三日も四日も続いてやつと軽くなつたから会社に行つたら、その翌月また同じことがおこつて、要するに会社や工場で働き続けることが出来ない、という患者がいつぱい出たんですね。ところが日本の医者は、大学の教授から街の先生から、特に広島長崎の医者はみんなそうでしたが、アメリカから特に被ばく者を一生懸命診るような医者は、なにかアメリカに含むところがあると考えると、睨む、お前たちはそういう意味でアメリカから目をつけると言われて、被ばく者を親切に診るということも困難になつた。

つまり、他国の軍隊に占領されて、自分の国の政府も役人も何の役にも立たなくなつた、そういう状態に、私たち日本人は一度、七年間苦しみを味わいました。私は銀座で、酔つ払つたアメリカの兵隊が数人で、公然の場所、女性をレイプする現場を見たことがあります。日本の警官がそばに立つても、ちょっとでも？ば、殴り殺される、そういう占領を我々は受けたのです。しかも、今の医学では全く診断も治療もできない、新しい原爆病

という病氣、この病氣の患者を研究をするとも、日本の学者は、禁じられました。

日本の政府は、困っている被ばく者をなんとか生活させるために法律を作つてなんとか援護をするということも禁じられました。彼等は日本アメリカの軍事機密を知っているまだ敵性の国民なんだと。それを日本の政府が特別に面倒をみることは許さない、こういう占領が続いたので。

でもそれは7年後に終わりました、しかし、その直後、皆も知っている日米安保条約というアメリカがおこす戦争には日本が全力を上げてこれを助ける、そういう今の安保条約という条約ができて、日本の政府は今でも、日本を守つてくれるアメリカの核兵器がふりになるような運動を一切してはいけません。

まだ今の政府はそういう方針を持っています。私が皆さんに言いたいのは、放射線の：皆さんは今度東北で福島原発が事故を起こして、たくさんの方が今、うちにも帰れない、せつかくいたら外へ出て行けつて言われるような目に今あつてます。原発から漏れてくる、放射線も、原子爆弾でみんなが浴びる放射線も、放射線はおんなじものなのです。全然違わないんです。プルトニウムとウランという二つの放射線分子を燃料にして熱を作つて電気を起こしている。だから事故を起こしてこれをとめられない。

皆さんはエネルギーを沢山知っています。一番目にするのは火ですね。これはエネルギーです。ところがこれはマッチの火はもみ

消せば消える。ライターもスイッチをこすれば消えてしましますね。あらゆるエネルギーは、他のエネルギーは、消すことが出来ず。

ところが放射線のエネルギーは絶対に消すことができないんですね。あれだけの事故を起こしたあの原子力発電所も、あそこで燃やしたウラニウムという原料がそのまま熱を持つて燃え続けるのを消すことが出来ないんです、人間には。

そういう難しいエネルギーを普通にはそこから辺にはないのを、無理やり特別な化学の方法で無理やり引つ張り出した。引つ張り出したことはいいけれども、最初に使つたのは人殺しの爆弾に使つたと。そしてその機械が戦争が終われば、工場はそれを、もうつくりつづける必要がなくなつちゃう、なんとか使えないかつて言うんで、無理やり電気を起こす機械にして世界に売つたわけですね。

それを買つた、買わされた日本が飛びついて、それで電気を起こし始めた。事故が起きなけりやいんですよ。でも今度みたいに一変事故が起こつたら、もうどうしようもないんだ、あれ。埋めちゃうわけにもいかん。海へ放り込むわけにもいかん。どうしようもないんだ。でつばなしですあれ。放射線が。

だからあれはごくわずかだけれども、ずっと毎日朝から晩まであの工場の屋根から上へ空中へ出て行く。水の中にも出る。それはなくなりませんからね。貯まるんです。どんどん。

だから東北のあの工場の真上に、ドンドン



出る放射線はそのまま風に乗って好きなどこへ行きます。そして地面に降る。降ったら地面に留まって、そこはもうお米も作れない。商売には使えません。第一、そのそばへいけば被ばくをします。そういうふうは今東北は、日本の国が東北という部分だけ破壊されてしまったと。

極端に言えばそういう状態が今起こっている。ところがテレビに出てきて、知ったような解説をする学者がたくさんいます。彼等は放射線を作る側、あの放射線を作るのは簡単には出来ないんですがね、だからアメリカから今ウラニウムを買ってきて、やってくるわけだけれども、あれを作る側の学問をやっている人がでてるんですね。あそこへ。

ところがこの放射線が人間にあたったときに、それが人間がどんな変化を起こすかについては何にも知らないんです、彼等は。だから直ちに心配なことはおこらない。そりやそうですよ、今日被ばくしたら明日病気になる、そんなことはないんだ。

でももう現に東北では、下痢が始まっています。さつき此処に出られた被ばく者の方が、お母さんも、妹も、弟も自分も下痢が始まったとおっしゃいました。最初の症状の一つに下痢が始まります。でこれは今の普通のお薬では止まりません。

だからあたくしが一番心配してるのは、あの今東北で本当に苦しみぬいている、それで長く住んでいるうちから遠い不便なところへ行って、隣の人とはボール紙一枚で仕切られ

たところで、もう一ヶ月以上生活してるとですねえ。

でこの人達がなめた苦しみは、今のところは不便なところで寝てるっていうことで、年寄りや病人が、いろいろ死なれたり、病気が悪くなったりしてられるけれども、元気なものも含めて、放射線の病気が始まってくるのは、おそらくこの秋から来年の春にかけて、たくさん出てくるだろうと、わたくしは想像しています。

でも、ま、仮に病気になった人を私の病院に入れて、この人の今の下痢は放射線の影響ですということを証明する学問がまだないんです。これが泣き所です。だから人をああいう目にあわせて殺した側は、完全犯罪だよな。

三十年後に癌で死んで私はあの時にあの被ばくをしたから、この病気になったんだ、なんほ言つても、証拠を挙げられないんだ。今の医学は、それを見つげるところまでまだ行ってないんだ。

理由は、簡単なんです。あの放射線のつづの大きさはね、皆さんが持っている定規の一番小さなメモリは一ミリメートルです。その一ミリメートルの二億分の一というのがウラニウムの粒の直径なんです。これが体の中に入って悪さをする。今の医学は、人間の体を分解して細胞という一



番小さな命の単位のところでは病気を見つける。これの六〇億分の一のところでは今病気を起こしてるといふことは、それを見つげる方法を持つていない。だから治す方法もなければ、消すことも出来ないという、特別なエネルギーをなんで選んで日本人の国の中で電気を起こさなきゃならないのかということなんだ。

みんなは知らないからあの方がたくさん電気が起こるんだとか、他の奴より地球の空を暖かくしない、温暖化を防ぐからとかうまいこと言われて何となく、それで出来る電気之恩恵を受けてのうのうとしてるけれども、敦賀の原発の一つが今もし事故を起こせば、広島はひとたまりなくその影響の中に入ります。だから、私たちはもちろん核兵器はもうつくつてもいけないし使つてもいけないという運動をします。だけでもこうなつてみれば、原発だつて許すことは出来ない。私たちの仲間の日本人が事故を起こせば何百万人という人が今東北で苦しむ。あの姿は皆さんの明日ではないということも誰も言い切れない。

だから放射線というものはまだ人間が自由にコントロール出来ないエネルギーなのですから、これはもう掘り出すことをやめる、もちろんこれを使うこともやめるといふことが、人類が全体で長生きするためには、世界中がこれをやらなくてははいけない。

政府は、あの原発の事故を起こしたところから、二十キロ三十キロのところの人は悪いけど立ち退いてください、やっといいましたね。アメリカはこのニュースを聞いた時に、

日本にいるアメリカ人に八十キロ離れたところへ逃げろということアメリカは言ってるんですね。もう翌日もうそういう発表している。

それからフランスもドイツも日本に派遣している特派員、これは十二日の朝には、本国から、大阪まで逃げると、東京のそこは全部そう言われています。つまり、それだけ逃げていなければ、お前の将来はあぶないよということ、フランスもドイツもアメリカもよくしってるから、ちゃんとそういう放送をするんですね。

日本政府はひと月たつてやっと、二十キロ三十キロのところを、恐る恐るあんた向こう行つてください、なんてとぼけたことをやっている。つまり何にも知らないんですよ、日本の政府は。金儲けだけを考えている。だから、私は今日わざわざ、広島へ此処へ来て、この中には山口県の新しくできる原発反対に協力している若い方が、いっぱいいると聞きました。私も広島陸軍病院にいたときに、上関の婦人たちの健康診断を頼まれて、一度あの当時は村でしたけど、あそこへ行ったことがあります。

穏やかな非常に景色のいいお魚の美味しいところですね。その漁場を追われて、今ほんとうに真剣になって、東電来るな、いやあの中電来るな、電気会社に反抗して頑張っています。とうとう力負けしてだんだん向こうのほうが有利になっていくようですが、今度の事件があったので、会社が強引に進めるのを、ちよつと今、休んでるようです。

だからこれからの日本の国民の闘い方一つで、日本の国から、原発は追い出すことはわたくしはできると思っています。そしてそういう力を集めて、核兵器を絶対に世界からなくす。皆さんはのん気な顔をしてるけど、今の政府民主党の議員の中にも、日本が原爆を持ってという議員がもう六十%を超えてるんですね。

日本が核兵器を持って、もう一度他所の国と喧嘩をすると、ゆうことを考えている議員が全体の議員の中で五十%をもう超えてるんですね。だからみなさんがこれから、これからの自分たちの生涯、これから皆さんが持つ子ども、孫、その上に放射線の恐ろしさや不安を絶対にさせないような国にこの国を作り替える、これがわたくしが一番大切な事だと思っています。(「さまあみやがれい」ブログより)

肥田舜太郎さん「原発なしで暮らしたいー〇〇万人アクシヨン」広島」でのスピーチです。映画「ヒバクシャ」に登場されます。ぜひ、映画で会って下さい。

七組教化委員会ワンコイン上映会

## 「ヒバクシャ

### —世界の終わりに—

二〇一一年六月十八日(土)

十三時開場 一三時半〜十五時半上映

西勝寺

(姫路市船津町仁色)

☎079-232-1880

**関電とお話2** 光円寺吾輩はこつブログより  
夏に向けて節電要請「原発を止めているので、電気が足らん」ちゆうことが、言いたいのでしようが、その根拠となる、供給する側の発電能力と、需要する側のデーターを示してください。

で、電気が足りません。電気が足りません。電気が足りません。電気が足りません。困りますよ。。。どうします???たいへんですよ。おく今までのような生活は、電気が足りなくなるよと出来ないよ!やっぱり安定して電気を供給する『原発』が必要ですよといたいので、来月の電気料金の支払いの時には、〇さんがその「データー」を見せてくれはることになっていきます。

**全国6・11脱原発100万人アクシヨン**  
東はりまアクシヨン(加古川)に参加!



市民グループ憲法を生かす加古川・稲美・播磨の会ができて、脱原発の街頭署名活動をされました。どこかで何かをしたかったの、まぜてもらいました。かいじゆうげんぱつどん、ずつとウソだったんだね...など歌い、死者の踊り、演説などもりだくさん